

心の ともしび



No.820 2026年8月

「平和」

暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう



平和な世の中のために

新潟教区 パウロ 成井大介なるいだいすけ 司教



学生のころ、研修でフィリピンに五か月ほど滞在し、地方と都会の二つの教会でお世話になったことがあります。最初に滞在した地方の教会には、小教区内に二十ほどの巡回教会があり、司祭について徒歩やボートで次々に教会を訪問し、ミサのお手伝いをするという毎日でした。

その地域は多くの村に電気が来ておらず、水も、井戸のある村とない村がありました。そのうちの一つの村のことを紹介します。たぶん二十世帯くらいの小さな村で、家は竹でできていて、人々の暮らしはとても素朴です。その村には井戸があつて、村の人、そして近隣の、井戸がない村の人々も水を汲みに来ていました。

その村には、何らかの病気のため、自分で立ったり、動いたり、話したりできず、いつも窮屈きんくつそうにベビーカーに乗せられている五歳くらいの子がいました。ここでは、Aちゃんといいます。Aちゃんのお母さんが朝一番にすることは、Aちゃんをベビーカーに乗せ、村の真ん中にある井戸に水を汲みにいくことです。

井戸には、その村や、となり村の女性や子どもが集まってきて、井戸端会議が始まります。皆さん、水汲みの順番を待ちながら、実に楽しそうに話しています。Aちゃんのお母さんは、水を汲み終わると、Aちゃんを井戸に残して家に帰ります。この村では、井戸に水を汲みに来る人たちが、Aちゃんのお世話をするので、とても楽しそうに。

その村は、明らかにAちゃんを中心に回っていました。話すことも、動くこともできませんが、Aちゃんが人々を幸せにする村の主役でした。人を助けて当たり前。人に助けられて当たり前。まったく自然なこと。そうやって日々が回っている村でした。

この村にも問題はたくさんあります。近くに病院がないため、ちょっとした風邪や病気で亡くられる方もいます。でも、平和でした。きっと私は、たとえいろんな問題があつても、人を当たり前に大切にしている人たちを、平和だと感じるのだと思います。私は、平和な世の中のために何かしようとするとき、いつもこの村のことを思い出すようにしています。

ホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)



【ラジオ番組「心のともしび」】 月曜日から土曜日まで毎朝、全国ネットで放送中！

各方面で活躍中の執筆者約30名が、その月のテーマに沿って書き下ろしたお話をナレーターの朗読でお届けする番組です。放送されたお話の中から毎月6篇を選んで機関紙に掲載しています。ぜひ、他の方のお話もお聴きください。パソコンやスマートフォンでも「ポッドキャスト」で午後1時（土曜日放送分は日曜日）から配信しております。ラジオが聴けるアプリ「ラジコ」のタイムフリーなら過去1週間以内に放送された番組がお聴きいただけます。

放送時間や「ポッドキャスト」、「ラジコ」などはホームページを御覧ください。

仮事務所 連絡先 （電話：075-211-9341 FAX：075-211-9343）

〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1 カトリック西陣教会青年会館内 心のともしび運動YBU本部